リステラス星圏史略
古資料ファイル
６－２
《 ナシルの谷 》
史略

（１９９０年）
（未完）
（発掘作業一旦完了）

霧樹里守 is 土岐真扉

（ある老人の言。）　（**1984.9.19.**）

今日の労働と　明日の糧と
明後日の祭の仕度まで
あるとゆうのに

この上に何が
わしらに必要だと

あんたは言いなさるのかね？

…1984.9.19.ある老人の 夢のなかの 言。…

（参照したければ資料）
↓
http://85358.diarynote.jp/201702231812088004/
…まずは断片的な（もはや意味不明の）メモ類…。（＾＾；）

《われらが麗しの天地》

フェア　リスト　テイィ・ラーヤ

みおや（御母）の贈り物

フェア　リスト　テイィ・ラーヤ

聖なる運び手よ

フェア　イスト　エイラ・イーラ

我らに与えしは

ウェア　リスト　エイラ・イーラ

聖なるこの土地を

...スタル・アルラーナ　創世賛歌...

《 ナシルの谷 》
史略

《 ナシルの谷 》

　ナシルの谷

　ナシルというのは古語で、ナール（有性）とイシール（無性）に分かれる前の、人間、という意味である。アリンシエラン皇家の領地の一部であり、何故この名称を持っていたのかは現在のところ不明。近隣に帝国直轄の学舎があり、その縁で、理想生活の追求・実験の場として皇女より提供された。

　当初は分業と貴賤の差別化の進む "経済" へのアンチ・テーゼとして始められた、あくまでも一部変人学生達のまじめなお遊びであり、政治・行政的な色彩はない。

　創立当初のメンバーは以下の通り。

※俗に言う『エラン・ナシル』（人間の一党）

　・アリンシエラン内親王（聖・ラクサ家のアリンシ・エラン）
　・アランナール（貴・ヴェーラ家のアランノ＝アール）
　・ウルアン（素・ラク系のウルノル＝アン）
　・エルル（貴・ノグナ家のエルドス＝ローン）
　…
　・カエン
　・サエラ
　・シスム　（小姓、侍、…性別が決まってない！）

※　ウァ・エムバ（大陸）…王国、大地。

※　ングサ・インスカ…神聖帝国。

（荒筋）

荒　筋

☆　貴家の３男だが早くに両親を失くし、２人いる兄には粗略にされて乳母の田舎で育てられたエルル。すでに嫁した姉の世話で学舎住まいの身となる。課業には熱心だが、官家・学家に向かない性格と目されている。

　親友のウルアンは労家の出身だが、富裕な商家の目にとまり、養子待遇の特待生として学舎でガリ勉にいそしんでいる。

　ある朝エルルは学舎に隣接する帝家領の姫・アリンシ＝エラン内親王と出会う。不具でありながらそれを恥じることもなく、独自の姿勢を保つ風変りな姫である。

　また、学舎住まいの長い変人貴公子・アランナール殿下が秘かに想いをよせる相手でもあることをやがて知る。

（参照したければ資料）
http://85358.diarynote.jp/201703031600557426
「　荒筋　」。
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作） コメント (1)

『　ナシルの谷　史略　』　：　目次

2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

訳者序文

史略概説

第一部　ナシルの谷へ
…　エルル、ウルアン、アリンシエラン、アランナール、
"谷" に家をたて、生活を始める。

第二部　名もなき姫君
…　初代の孫たち、ひとつの理念を持ち、 "皇領" としての庇護を放棄。
民間自治領となる。
一方、帝国の没落。

第三部　風の丘
…　広がってゆく "谷" の生き方と生活の物語。
一方、外の混乱。

第四部　夜
…　ある日、ナシルの野、全土が、蹂躙されること。

（※　惑星他地方の動きがわからないと無理なんである!!）

（ついでに時間のオーダーは？）

（草稿＆没原稿）

（手書きノート表紙）

（草稿）

~~　今朝がた早くにあがった雨は木々の肌をしっとりと黒く濡らして、よじれるように萌えでたやわらかい新緑は、光を撒くように、ときおりの風に撫でられてはらはらと黄金の水滴を落とす。~~

　今朝がた早くに雨はあがった。木々の肌はしっとりと黒く濡れている。
　新緑はまるで光を撒くようだ。ときおりの風に撫でられて、はらはらと滴が、香りのたかい土にふる。

（　もったいない…　）

　うん、と伸びをして、黄金の日ざしを楽しみながら、エルルはちょこっと優越感にひたった。

　残してきた同級生たちは、惰眠をまだむさぼっている。

（　当番だと思うからいけないんだよな　）

　うん。と、ひとり肯いて、学舎に付属の果樹園をひとり、とっとと歩いて行った。

　動きやすい素民の衣を着て、背には籠。両手にいっぱい枯れシダを持っている。

（参照したければ資料）
http://85358.diarynote.jp/201703031653272677/
（草稿）
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

『 ナシルの谷　史略 』　第一章　第一節　（**1990.05.21.**着筆）

『 ナシルの谷　史略 』　第一章　第一節　（1990.05.21.着筆）
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

『 ナシルの谷　史略 』

第一章　第一節

土の香りがする。

朝霧がさしそめた陽光をはねかしている。

そろそろ刈らねばならない下草の水滴を踏みつけながら、うん、と伸びをした。

エルルは朝が好きだ。

この時間はなにより幸福だと思う。

だから、他人の当番までつい引き受けて菜園へ、毎朝せっせと足を運ぶのは、日課を通りこした秘かな趣味なのだ。

毒舌家のウルアンに言わせれば、お人好しの貧乏くじ、土民になるためにわざわざ学舎へ来たわけじゃない、なのだそうだけど。

とまれ、日の出とともに新鮮な菜類を食堂へと運ぶ係が、いなければ困るのも、現実なのである。

帝国が後援する数少ない公立学舎の生徒たちは、家柄血統を問わず自給自足を等しく義務付けられている。

エルルが着ているのは手紡ぎ手織りの生なりのチュニックで、これも学舎に入って早々に、課業でこさえたものだ。

業を卒えれば皆、あらゆる地方のあらゆる役職に就くことになるわけだから、国中のすべての産業の労苦を身をもって識っておかねばならない、というのが、学舎の教育方針。

たてまえ通りにいくわけでもないのは、貴家の子弟と商家や労家の特待生が机を並べるのであれば、当然のことだ。

エルルは、一応、貴家のはしくれの部類だ。

学費にもさしたる不足はない。

それが、なにを物好きに…と、ウルアンなど頭からの変人扱いだ。

いいではないか。

と、エルルは考えている。

好きなものは好きなのだ。

淡い黄金色の天空と、青白いソレル（太陽）にかけて、日の出とともに起きだして、アルラーナ（天地）の恵み物を籠に入れる、労家さながらの行ないが、自分に合っている。

それは、確かなことだ。

幼ない頃、乳母の田舎に預けられて育ったことにも原因があるかもしれない。

…まあ、それは、どうでもいいことで。

今朝は、ことし一番の春ぶどうを皆の食卓に乗せられる。

菜園でいつもの分を採ったあと、果樹の畑へいそいそとまわった彼は、役得、とばかり、まずは自分の口に放りこむ。

つややかな黒い幹から春先の花房の形そのままに垂れさがる淡い桃色の半透明の樹果。

独特の甘味。

香りのたかさ。

思わず口いっぱいに頬ばったところへ、

「うまそうじゃの」

…急に、声をかけられて、彼はむせた。

街道から学舎客門（正門）に通じる公道沿いの果樹列。

「わらわ（妾）にも、ひとつたも。」

あわてて振りかえれば学舎内では珍しいことに、まだうら若い女性。それも、~~少々奇抜な装いではあるが、~~ひとめで上臈だと知れる、高価そうな衣をつけている。

数ある貴家のなかでも、かなり帝室に近しい姫であろう。

供はなく、見慣れない四つ足に曳かせた車輪つきの奇妙な輿に座している。

ふっくらとした浅黒い肌の手のひらをさしだして、腰かけたまま、春ぶどうの果実の届けられるのを、当然のように待っている。

その、態度が、エルルのしゃくにさわった。

もし彼がもう少し位の高い貴族であるか、身分の低い労家の出自であれば、大慌てでお追従のひとつも言いながら、籠ごと献上するべきところであろうが。

無頓着なエルルの場合、ただ、ムッと、口をへの字にしただけである。

「…くれぬか？　少しでよい。」

目下の者の無礼を気にした風もなく、姫君は重ねて言った。

エルルにしても無視するわけにもいかない。

~~「これは、学舎に属するもので」~~

背中の菜籠をしょい上げながら、慌てて韻文を探した。

~~「僕が冬のうちから丹精こめて、世話をして実らせた…」~~

「　これなる菜園は…
　学舎に属するもので、
　冬のうちから丹精こめて
　ぼくが世話をして実らせたものですが、　」

初対面の貴種族に平文で話しかけたのでは、あまりに無礼にあたる。

そのくらいの躾は、エルルも学舎で叩きこまれているのだ。

姫君は、そうか、という顔で聞いている。

「　のどをうるおす一房を
　ぜひに欲しいとおおせなら
　御自分で　樹下までおこしを
　身分高きかた　」

「　よろこんで　差しあげましょう…」

…ようするに、欲しいというなら自分で取りに来るのが礼儀というものだろう、と、身分差を無視して殆ど喧嘩を売っているに等しい。

相手が悪ければ、分をわきまえぬ不省者と、学舎長にねじもまれて、悪くすれば波紋さわにぎなりかねない。

…が、姫君は、姫君らしからず、天をあおいで愉快そうに笑った。

「確かにの。礼をわきまえぬ振る舞いにて、すまぬことよ。」

車つきの輿をひく獣の手づなをはずし、低い座面から大義そうに両の足をおろす。

小径から樹園へと続くゆるやかな斜面を、お運び下さろうというわけだ。

そこまでは、エルルの感覚では、すくなくとも頼みごとをしている以上、当然、だと思った。

姫君の上体が、一歩、踏み出したとたん、ぐらりと傾ぐ。

泥にあしをとられて転ぶのか。と、見えた。

エルルは慌てて駆けよりかけた。

が、何事もなさそうに姫君は上体を起こす。

あしが、つられて動く。

また、反動をつけて、上体が、ぐらり。

あしが、ひきづられて、ずるり。

……不具なのだ。

気づいて、エルルは、困惑した。

わずか３ヤンほどの傾いた草地を姫君は、ぐらり、ずるり、と全身を振りながら昇ってくる。

近づけば、年長であろうにエルルとさして背丈もかわらぬ小柄な姫は、かすかに息をはずませながら、平然として謝罪した。

「礼を欠いてすまぬな。見ての通りの体にて、つい、余人に面倒をかけがちなのじゃ。」

「…いえ…姫君…僕のほうこそ…」

存じ上げぬこととはいえ失礼を、と、しどろもどろに口ごもるのを、そういった応対には慣れているのか、半ば無視するようすで、春ぶどうの房をとる。

（未完）

大陸ウァ・エムバの大半を占めるングサ・インスカ（神聖帝国）が、いまだ平穏であった時代に、この史略は端を発した。

　聞くところによればエルルは一応、ハッシュ（貴家）のはしくれなのだという。

　なるほど舎生名簿には、ハッシュ・ノグナス・エルドス＝ローン（貴・ノグナ家の末弟エルドス）、となっている。

~~　もちろんローン（末弟）であれば位階の継承は望めない、彼一代限りのものではあるが。~~

　ウルアンはといえば "家" も名乗りえない素民の出自である。

　ギオ・アグ・ウルノル＝アン（素・アグ血統の単子ウルノル）。

　ただし舎生名簿には、養家であるライム（業）・ラク家の姓を借りて、ウルノル＝ラーン（三男ウルノル）で載っている。

　大陸ウァ・エムバの大半を占めるングサ・インスカ（神聖帝国）が、いまだ平穏であった時代に、この史略は端を発した。

「概要：《ナシルの谷》 史略」。　（仮題）
2017年2月24日 リステラス星圏史略　（創作） コメント (1)

概要：《ナシルの谷》 史略　（仮題）

貴野真扉（とおの・まさと）

うすももいろの春ぶどう、たわわに実る、ングサインスカ（大陸帝国）の初夏…

官立学者の自給菜苑で、エルル、こと、ハッシュ・ノグナス（貴・ノグナ家の）エルドス＝ローンは、風変りな姫宮に、であ（遭遇）った。

見慣れない北方の毛深い獣に曳かせた車輪つきの輿に乗り、侍女のひとりも連れずに、身分の低い見ず知らずのエルルに気さくに話しかける。

春ぶどうの房をうけとりに輿をおりた姫宮は、一歩を踏みだすたびに上体の大きく揺らぐ、不具の身の上だった。

エルルの無礼なふるまいを知った旧友のウルアンは仰天して劣化のごとく怒る。

パエ・ラクサス（聖ラクサ家の）・アリンシ＝エラン。

ングス・アイン（現神帝）の末の姫、内親王である。

学者住まいの母方の従兄を、ときおり訪ずれるのだと、いう。

学舎寮内では新入生にもすでに知られた話で、聞き及ばないのは、世間知らずの昼あんどん（行燈）とそしられる、エルルくらいのものだろう。

O

ハッシュ・ヴェーラス（貴・ヴェーラ家の）アランノ・アール（長子アランノ）は変人君との噂がたかい。

才幹にあふれ、容姿にも恵まれ、前神帝の親王を父にもつ、望んで叶わぬ地位のない選りぬきの貴家の嫡子でありながら、各家の姫たちの求婚をぬらりくらりと言いぬけて、ろくに帝都へ伺候すらせずに、もう六年もの間、学舎住まいで通しているのである。

学究の徒になりたいというわけではない。

講義にもさして出ず、暇潰しに学内の後輩たちの人生相談などしてやりながら、気が向けば金琴をたしなむ。

腕のほどは確かなものである。

本人もそれを十分承知していて、家柄の枷さえなければ、ああ私は自由なエゲラ（放楽人）になりたい、などとわざとらしく世間を煙にまくような言葉を吐くもので、ひととなりを伝え聞いた姫君たちが、俗世嫌いの風流子、と勝手に思いこんでますます熱をあげ、求婚の使いの途絶える日もない。

当人は、どう考えているのか。

学資とひきかえに小姓の役割をひきうけている特待生のウルノル＝アンは横目で観察している。

固有の家名も持たないギオ・ラグノン（素労系）出身の彼が官界で身をたてようと思えば、学舎での修業期間中に後ろ楯をつかんでおかねばならない。

この、現在の主君は、どういう人物か…

O

学舎の新入生と思しき先刻の少年に姫宮は好感を覚えたものらしく、本題にはいる前にひとしきりその顛末を語った。

身分の上下に卑屈にならず自分の非礼をきちんと指摘してくれたのが善いと、きっぱりと言い

きる姫宮は、その不具である肢体以上に宮城では異端者だった。

　ただ、父である現神帝~~と東宮~~にはその気性を深く愛されている。

　~~そのことを、従兄アランナールもよく承知していた。~~

　アリンシ＝エラン内親王の、母妃は十数年前に異母姉との后位争いに敗れて以来、心痛のあまり帝都郊外の自領にこもったまま、半ば隠遁者か半病人のような暮らしを続けている。

　争いに破れてというのは文字通り、現聖后の放った手の者に城館をとりこめられ、深傷を負わされたのである。

　それも、自分ではなく、たったひとりの愛姫アリンシに。

　生涯、歩けぬ、と、治療にあたった医薬師どもは口をそろえた。

　悲嘆に泣きくれる心弱い母妃に比べ、姫宮の気性は父帝のほうにこそ、はるかに似ていた。

　傷の癒えるとともに寝台から這い降りて独りで歩く訓練をはじめ、

「姫さま、そのように無様なお姿を人目にさらすくらいなら、寝たきりの内親王よと忘れられた方がまだしもで御在ます。」

　侍女達になんと責められようとも、どこへでも自分で歩いて行った。

　その速度はつねのもの半分にも及ばなかったけれど。

　その苦労を笑いとばす姫宮自身の話を聞いて、乗用にと北の獣を献上したのが、アランナールの父にあがる現神帝の弟君である。

　アランナールは北辺の自領から、贈物をたずさえて初めて従妹姫を訪れた。

　幼い二人には気性に似たところがあったのか、すぐに意気投合して大の親友となり、結局、ジョアというその荷役獣に乗るにも姫宮の脚は適さないと判ったので、獣に曳かせる独特の車輿を、三月かかって従兄は考案した。

　ジョアは穏やかで賢い獣で、走ることは決してしないが、人の足より早く、一日中でも歩き続

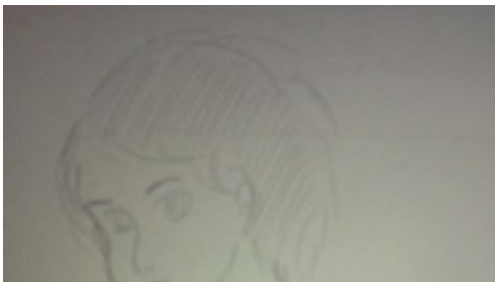
ける。

　まもなくアランナールは貴家の慣例に従って官立の学舎に入寮し、アリンシ＝エランは聖家の姫宮らしくもなく、供も連れずに度々訪問するようになったのだった。

　　O

　聖家のアリンシ＝エラン姫が窓ごしに気軽く声をかけると、アランナールはいつも窓わく越に抱き上げて、室内へと招きいれる。

（未完）



コメント

霧木里守≒畑楽希有（はたら句きあり）

2017年2月24日18:54

画像１：　幼い頃のアリンシちゃん。

画像２：　１３歳くらい？のエルルくん。

「人間なんてさあ、仕事と、食うものと、あと寝るところさえあったかけりゃ、それで十分だと思わん？」

「人間なんてさあ、仕事と、食うものと、あと寝るところさえあったかけりゃ、それで十分だと思わん？」
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作） コメント (1)

「…なぁ。」

　課題を浄書する手筆をふと止めてエルルが呟いた。

「人間なんてさあ、仕事と、食うものと、あと寝るところさえあったかけりゃ、それで十分だと思わん？」

「まぁた、脱線して。」

　すでに紙葉の製本にかかっているウルアンが睨む。

「それ今日中に提出だぞ。判ってんのか、落ちこぼれ。」

「うるさいなー。おれ、まじめに考えてんだけど。」

　なあ？　と、再度、意見を促されて、 "色男" アランナールは、ふっふと笑った。

「おまえの言うのはアレだな。衣・食・住じゃなくって、意・食住なんだな。」

　竹琴と、女性のためにしか使わない、と本人が公言している長くて細い指が、雅な茶器を口元に運ぶ。…むろん、学舎共有の安物などではない。数多ある恋人からの差し入れなのだろう。

　エルルは、ちょっとすねた顔をした。

　あちこち染料のはねた自分の学徒服を見おろす。

「服なんか着てりゃあいい。…いや、寒くさえなけりゃ、裸でだっていいな。」

「女性が同じセリフを言ってくれたら、私は何をおいても暖房に意をくだくんだが？」

「史略概説」。
2017年2月24日 リステラス星圏史略　（創作）

史略概説

今日リステラス星圏として知られる機構のもとい（基）となったのは大別して二系統の文明である。地球系植民惑星連邦…テラズまたはテラザニア…と、リスタルラーナ星間連盟として、それらは互いのファースト・コンタクト（第一遭遇）の相手となり、様々な曲折を経て統合され、ほぼ現在に等しい領域とシステム（機構）をもって汎銀河協約に加盟した。

星間連盟リスタルラーナ、その首都にして人類発祥の地でもあった惑星リスタルラーナの、名称の語源は、リ・イス・スタル・アルラーナ、我らが美わしの天地よ、という、祈りまたは呼びかけの冒頭の詩句である。

この詩句は現在は一般の人心からは失われているが、リスタルラーナ前・近代の混沌期においては、世情の安定を求める人々のあいだで広く愛唱された歌謡であったという。

作者は、詩曲ともに上代中期の人、ハッシュ（貴）・ヴェーラ家のアランノ・アール。

さて、天変地異による混乱の前期を経て、近代にはいり政治的に統一されると共にスタル・アルラーナと呼ばれることになるこの惑星は、その以前、上代においては、それぞれ起源を異にすると思われる三種族の人類と、さらに数多い文化圏とで成り立っていた。

地理的には二つに区分される。巨大な淡水湖である多島大海…ラクシャ・インストラ…と、それをとりまく形で惑星の過半を占める大陸ウァ・エムバである。大陸は、両極周辺に三千アクラ級の山岳部を有する他は、おおむね起伏にとぼしく、気候も

温順で、豊かな耕地が広がっていた。

　この物語は、ウァ・エムバを舞台として語られる。

　かの地で、ひとにぎりの学生たちが始めたささやかな試みが、ひとつの流れとなり、いつしか惑星文明の根底をなす思想として世界を、歴史を、動かすに至った。

　その、始まりと過程の史略である。

（ナシルの谷　史略：概説）
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

ナシルの谷　史略：概要　概説

今日リステラス星圏として知られる機構のもとい（基）となったのは大別して２系統の文明である。地球系植民惑星連邦…テラズまたはテラザニア…と、リスタルラーナ星間連盟として、それらは互いのファースト・コンタクト（第一遭遇）の相手となり、様々な曲折を経て統合され、ほぼ現在に等しい領域とシステム（機構）をもって汎銀河協約に加盟した。

星間連盟リスタルラーナ、その首都にして人類発祥の地でもあった惑星リスタルラーナの、名称の語源は、リ・イス・スタル・アールラーナ、我らが美わしの天地よ、という、祈りまたは呼びかけの冒頭の詩句である。

この詩句は現在は~~史録に残るばかりで一~~般の人心からは失われているが、リスタルラーナ前・近代の混沌期においては、世情の安定を求める人々のあいだで広く愛唱された歌謡であったという。

曲節に関しては残念ながら記録が残されていないが、作ったのは詩曲ともに上代中期の人、ハッシュ（貴）・ヴェーラ家のアランノ・アールであったとされている。

さて、天変地異による混乱の前期を経て、近代にはいり政治的に統一されると共にスタル・アルラーナと呼ばれることになるこの惑星は、その以前、上代においては、それぞれ起源を異にすると思われる三種族の人類と、さらに数多い文化圏とで成り立っていた。

地理的には２つに区分される。巨大な淡水湖である多島大海…ラクシャ・インストラ…と、それをとりまく形で惑星の過半を占める大陸ウァ・エムバである。大陸は、両極周辺に３，０００アクラ級の山岳部を有する他は、おおむね起伏にとぼしく、気候も温順で、豊かな沃野が広がっていた。

この物語は、ウァ・エムバを舞台として語られる。

彼の地で、４人の学生が自分達の生き方を模索して始めたささやかな試みが、ひとつの潮流となり、いつしか惑星文明の根底をなす思想として世界を、歴史を、動かすに至った。

その、始まりと過程の史略である。

＊　＊　＊

ウァ・エムバ最古の

（設定資料）

「神・聖・王・貴・業・労・素／放。 」＋「学舎」。

◎　神・聖・王・貴・業・労・素／放。

・神（ングス）家…帝、后・妃（聖か貴の血統）、親王、内親王。

・聖（パエ）家…親王・内親王が独立したもの。
　（一代限りで貴化する）。

・王（ドーン）家…エウァ（エラン）の血統。辺境諸王。
　（扱いとしては貴家より下の場合も）。

・貴（ハッシュ）家…帝家の流れを汲むもの。

・官家・学家…学問及び貴家の実務的補佐。

・業（ライム）家…商業・交通。

・労（アグ）家…もともと農民を指す言葉であったが、文明の進行に従い分業が進んでいる。

・素（ギオ）民…

／放（エゲラ）…

◎　学舎

　…帝都・宮殿まで四ツ足で３時間位。街道から少し入った荘園地帯。
　　周辺には貴家・帝室の領地が混在。宗教寺社も多い。

（参照したければ資料）
http://85358.diarynote.jp/201703031516308783/

「神・聖・王・貴・業・労・素／放。」＋「学舎」。

2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

（［ン］が末尾につくもの⇒末子。）

［ン］が末尾につくもの⇒末子。

☆　正子

アン　（単子）男
エラン（単子）女

アール（長子）
エラル（長女）

ナン　（次男）
ニエン（次女）

ラーン（三男）
ネン　（三女）

（それ以下は相続権なし。）

　ローン（末男）
　レーン（末女）

☆　庶子　：
　　複妻式の場合、年齢順ではなく、相続順で数える。
　　繰り上がりはなしで、絶えれば家門とりつぶし。

※母音は　ア→エ→ウ→イ→オ、の順列。

（用例：次の子が産まれるまで、
　「アランノ」の呼称（肩書）は
　「アランノ・アール」でなく、

「アランノ・アン」だった。）

（参照したければ資料）

http://85358.diarynote.jp/201703031954466964/

（［ン］が末尾につくもの⇒末子。）

2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

（キャラ設定）

◎　（仮題）　ナシルの谷へ

◎　（仮題）　ナシルの谷へ
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作）

【ｷｬﾗｸﾄｱ】

☆　アリンシ・エラン

…内親王（皇女）。今上帝の末妹。
幼少時に母と伯母をめぐる后妃位争いにまきこまれ、右半身を負傷。
歩行が困難な体である。
教門に入った実母とともに帝都近郊の領地で暮らしている。適齢期。

特技　「座ったまま出来ることならなんでも得意」

一人称　わらわ（妾）

通称　姫君、姫、内親王（皇女）殿下、アリ姫、等

☆　アランナール

…名門の長男。義弟がいる。色男として評判が高い。
山なす縁談を黙殺して学舎住まいの最長記録に挑戦中という変人。
奏楽の名手。

特技　テエンタール（銀琴）、テレンティア（金琴）

一人称　わたし（私）

通称　公子、閣下、アラノン、他

☆　ウルアン

…雑家の出。商家の養子として学舎に入った奨学生で、冷笑癖がある。
その割に面倒見が良い。
幼馴染のイフィミカと文通。

特技　要領がいい。世事、経済に長けている。

一人称　俺、（私）

通称　ウルアン、ウル、他

☆　エルル

…地方の封家の末子だが、幼い頃両親を亡くし乳母の郷里で育てられる。
家督を継いだ異母兄たちとは疎遠。
嫁いだ実姉とのみ手紙のやりとりがある。

のどかな変わり者で、もっぱら上級生のカモ。
その割にひとなつこいので周囲に好かれてはいる。

特技　学舎付属の農園で植物の世話をするのが好きである。

一人称　俺、（僕）

通称　エル、エルル、棒や、他

（ア、オィ、ウ、エァ、イー。）

アリンシ・エラン内親王

アリンシ・エラン内親王

前帝の愛妾の娘。今上帝の末の妹でもある。
幼い頃、母親をめぐる后妃位争いにまきこまれて不具の身となる。
母は病床にあり、帝領の一隅で尼僧らとともに過ごしている。
唯一の不婚を許可された内親王。
本人は俗世を断っているいるつもりだが、帝位継承権がらみの暗殺等もある。

レーデル家のウルアン。まじめできつい。）

（レーデル家のウルアン。まじめできつい。）

□

（　だれだろう　だれかしら　♪　）

（借景資料集）

（参照したければ資料）

↓

http://85358.diarynote.jp/201702230955016825/

（借景ＢＧＭ集）

『 美麗天地 』～『 ナシルの谷 』～『火涙沢の物語』～。

『ＥＬＡＮ』

『ナシルの谷』。
2017年3月3日 リステラス星圏史略　（創作） コメント (2)

https://www.youtube.com/watch?v=chLZQtCold8
Lord of the Rings - Sound of The Shire

https://www.youtube.com/watch?v=plXjYiRcBtA
BUMP OF CHICKEN「GO」

ちなみに、貼った漫画『エラン』は…

設定がひと段落して忘れかけた頃に（＾＾；）

偶然見つけて、驚きました…☆彡

「エラン」（ELAN）って、もしかして、フランス語…？？

（私の「夢」には、ポルトガル～南仏らしき地域が、よく出て来る…？）

https://bookstore.yahoo.co.jp/shoshi-266769/
『エラン』新谷かおる
＞エラン、それは情熱で結ばれた４人の少年少女が設立した世界最小の貿易会社。誰もが自由で平等な理想の独立国家をつくるため

…なにゆえ「偶然の一致」で、ネタが、か～ぶる～ッ？？

…ｗ（＾◇＾；）ｗ…☆

（しかもキャラの組み合わせまで、ちょっと似ている…☆）

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%A9%E3%83%B3_(%E6%BC%AB%E7%94%BB)
＞『エラン』（ELAN ）は、新谷かおるによる漫画作品。作名である「エラン」とはフランス語源の哲学用語である"élan vital"（エラン・ヴィタール。「生命の躍動と飛翔」の意）からきており、作内ではおおむね「情熱」という意味で用いられる。

…うちでは「ナシルの谷（の住人たち）」つぅ意味ですので…（＾＾；）…☆

https://www.youtube.com/watch?v=FDv4DyMzMzM
三日月の舞

コメント

霧木里守≒畑楽希有（はたら句きあり）
2017年3月3日15:44
…ちなみに、おそらくの「もともと」は、

「日本語の古典」の時間に「為し得るらん」（ナシエル・ラン）と、

聴いた瞬間に、「白昼夢」に落っこちた。

というところから「記憶」（？）が展開した、物語…☆

霧木里守≒畑楽希有（はたら句きあり）
2017年3月3日15:44
某所の「あるや・あらむ」（人名）さんと、同ネタですね…☆

（手書きノート　**EX-LIBRIS** ）

リステラス星圏史略
古資料ファイル
６－２
《ナシルの谷》
史略

http://p.booklog.jp/book/113334

著者：霧樹里守 is 土岐真扉
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/113334

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト